



国土交通省

観光庁

Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

同時発表：スポーツ庁
文化庁

令和6年8月6日
観光庁

「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」の公募を開始します

～スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定による
「スポーツ文化ツーリズム」を推進します～

観光庁は、スポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組やスポーツ文化ツーリズムの実現を目指す取組を発掘し、観光の活性化を図るため、昨年に引き続き、スポーツ庁及び文化庁と共同で「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」の公募を開始します。公募を行った後、有識者等の意見を踏まえ優秀な取組を選定・表彰します。

【スポーツ文化ツーリズムアワード2024】

1. 賞の構成（※本アワードの過去の受賞団体については別紙をご覧ください。）

本アワードは、次の3賞で構成する。また、「新しい観光」の取組や、スポーツ庁が推進する武道ツーリズム及び文化庁が推進する日本遺産や食文化に関し、特に優秀な取組があった場合は特別賞を設定する。

- スポーツ文化ツーリズム賞 ○スポーツツーリズム賞 ○文化ツーリズム賞
- 特別賞（武道、日本遺産、食文化、新しい観光のいずれかの分野において優秀な取組の中から選定）

2. 公募期間 令和6年8月6日（火）から令和6年10月15日（火）17：00まで

3. 応募要件

次の①～④のすべてを満たすイベント又は取組とする。

- ① 「スポーツ」と「文化資源」のいずれか又は両方と「観光」が結び付いた取組（スポーツ×文化×観光、スポーツ×観光、文化×観光）であること。
- ② 国内外の旅行者の増加、長期滞在を促す仕組みや地域への経済効果波及につながる工夫がること。
- ③ 地域の活力の着実な増加につながるものであること。
- ④ 2019年以降に開催されていること（プレ大会や準備大会等は含まない）。

【取組例】

世界文化・自然遺産の中でのウォーキング／伝統文化を取り入れた踊りの体験／オンラインで行うワークショップによる地域スポーツや伝統文化を継承する取組／従来の観光にとらわれない新しい旅の形を実現した取組 等。

4. 公募要領等 公募要領等は、次の URL よりご覧ください。

URL：https://www.mlit.go.jp/kankocho/news05_00006.html

5. 公募締切後の選考スケジュール（予定）

- 令和6年11月 有識者による書類選考、選考委員会の実施
- 令和7年1月 受賞団体の公表
- 令和7年2月 表彰式（第8回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム内）

【問合せ先】観光庁 観光地域振興部 観光資源課 担当：細江(27-812)、安部(27-808)
電話：03-5253-8925（直通） 電子メール：hqt-sports★ki.mlit.go.jp
（送信の際は「★」記号を「@」記号に置き換えてください。）

スポーツ文化ツーリズムアワード2023 【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞

(申請団体)

愛媛県今治市

日本最強の城「今治城」を中心にしたスポーツ文化ツーリズム ～瀬戸内の中央を制した歴史が現代に繋がる～



取組概要

愛媛県今治市にある「今治城」を中心にした瀬戸内で行われた2022年度の様々なイベントを繋げた取組。

文化イベント 高虎サミットin今治を開催し、スポーツイベントでは、瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ、今治クリテリウム、サイクリングしまなみ2022、今治シティマラソンを開催し、国内外から多くの人を呼び込んだ。

また、食や特産品のイベント セとうちみなとマルシェを開催し、イベント来訪者や観光客の滞在を促した。

評価ポイント

●マルシェの取組では市民ボランティアの活用など地域の巻き込みが上手くできている。

●それぞれのイベントが魅力的であり、今治城や村上水軍、しまなみ海道等の文化・自然資源を活用し、様々な方々に刺さる文化・スポーツイベントを横断的に実施している。

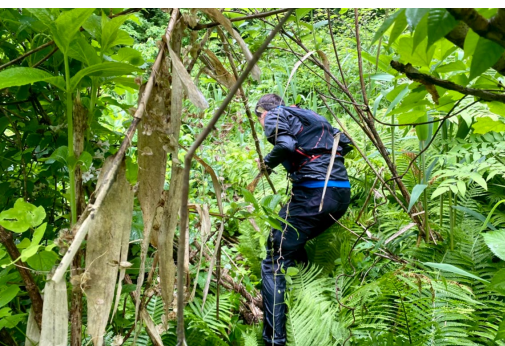
●航空会社の機内でのPR、ドラマの制作、自転車メーカーとの連携を通じて、海外への情報発信に様々な工夫が凝らされている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2023 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

越後まつだいトレイルランニング実行委員会

里山に点在する古道を蘇らせ新たな地域資源として発信！
「越後まつだい春の陣トレイルランレース」



取組概要

新潟県十日町市松代で行われたトレイルランニング大会。今は使われなくなり荒れてしまった古道を再発掘してコース用に整備、里山集落のなかを走れるコースを盛り込んで日本の原風景を体感できる大会制作を実現。

「大地の芸術祭」と連携させることで、「アート×トレイルラン」というユニークな特徴を持つ大会となるほか、地域活性化や里山環境保全、アスリートへの気候変動アクションの提唱が目的となっている。



評価ポイント

- 里山の古道という潜在的な観光資源を上手に活用している。
- 地域を巻き込んだ取組になっており、インバウンド層の取り込みもできている。
- 常設のアートをクローズアップする機会として非常に有効である。

スポーツ文化ツーリズムアワード2023 【文化ツーリズム賞】入賞

別紙

(申請団体)

一般社団法人 安中市観光機構

「碓氷峠 廃線ウォーク」 ～行き止まりのレールの先を、次の世代に～

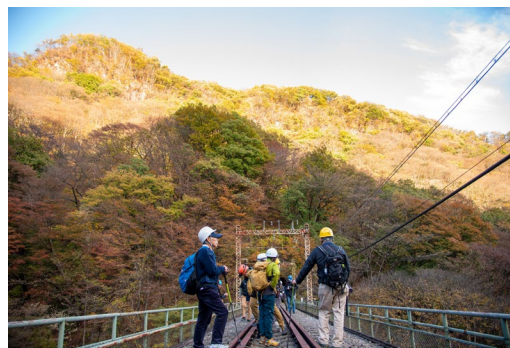
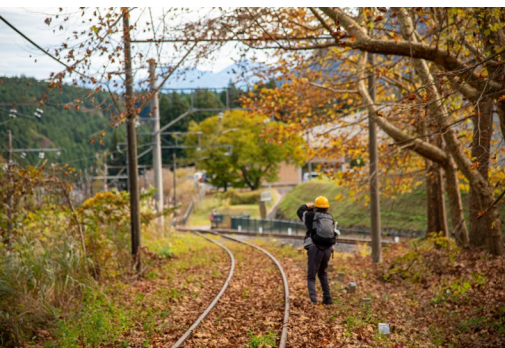


取組概要

2018年から群馬県安中市にある廃線を利用したウォーキングツアー。1997年に最終運行を迎えた信越本線の横川-軽井沢区間（通称、碓氷線）を利用している。普段は立ち入り禁止区間となる場所をガイド付きで約11kmを歩き、歴史的価値と峠越えの困難さを体感できるイベントである。参加者の9割以上が県外からの参加者であり、旅行の目的となるコンテンツとなっている。

評価ポイント

- 廃線となった鉄道を活用している点に特別感があり、そこにしっかりとした歴史的背景やストーリー性がある点を評価。
- 旅行やハイキングが好きな層だけではなく、鉄道や土木建造物が好きな層などターゲットが幅広くなりうる点が新しい。参加者の多数が県外からの利用という点もツーリズム性が高い。
- 日本全国にたくさんあると思われる廃線について、廃線活用のモデルケースとなることにより、他の派生モデルができることが期待される。



スポーツ文化ツーリズムアワード2023 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

一般財団法人 奈良市総合財団

別紙

外国人観光客向け本格的弓道体験 ～古の都奈良で武士の魂にふれてみよう～



取組概要

外国人観光客が、武の故郷である奈良において、武士道の伝統に由来する本物の弓道を体験できる企画。大会や昇段審査等も行われる本格的な八人立ちの弓道場で道着袴に着替え、高段者による優しく厳しいマンツーマンの指導の下、弓道の基礎、所作を学び、最終的に一人での向かって矢を射る。

「武道」＝「奈良」・「武道」＝「奈良の新しいブランド」というイメージを国際的に周知することで海外からの武道ツーリズムに繋げることを目指している。

評価ポイント

- 歴史や背景がある地域にとって価値が高まる。
- 本物の道場で袴を着けて、本格的な武道を体験できることで、日本人の美しさ、品格をわかってもらえる良い機会。
- 文化的な要素を知ることによって深く奈良を知れる良い機会になる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2023 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)
福島町観光協会

北海道福島町「女だけの相撲大会」 ～日本で唯一2人の横綱が誕生した町～



取組概要

1991年から北海道福島町で行われている「女だけの相撲大会」。川濯神社が創建500年を迎えた際に、奇祭である「女だけの祭礼行列」の奉祝奉賛事業として始まり、毎年5月の第2日曜日（母の日）に行われ、2023年で29回目を開催した。

国技として認識されている相撲を女性を対象としたイベントとして実施することにより、その裾野が広がり、それを応援している子供たちにも「女性活躍」や「ジェンダー平等」を考える良い機会となることを目指している。

評価ポイント

- 海外や地域外の方も参加している取組である。
- 約30年続けて実施されている取組で、地域の相撲文化を作っていると評価できる。
- 女性活躍の視点もありながら、文化的、歴史的な背景があったうえで継続的に取り組みが行われている。



スポーツ文化ツーリズムアワード2023

【日本遺産ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

一般社団法人 下諏訪町地域開発公社 観光振興局

国指定史跡・日本遺産～星降る中部高地の縄文世界～
「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」の観光資源化

取組概要

長野県下諏訪町にある星ヶ塔黒曜石原産地遺跡は、2015年に国史跡、2018年には日本遺産に認定された。2021年度より、様々なテーマで星ヶ塔遺跡に関する着地型旅行商品として、通常は立入禁止の星ヶ塔遺跡を発見・発掘者の解説付きで特別に見学できるツアーとして実施。また、周辺地域に点在する文化資源や博物館施設と連携し、多角的にアプローチしている。文化財を適切に管理しながら積極的に活用することで、文化・観光・地域活性化の好循環の創出を目指している。

評価ポイント

- 日本遺産を中心に周辺の文化を組み合わせたコンテンツであり、多彩なガイドの存在が付加価値を上げている。
- 地域事業者を巻き込みつつ、参加者がリピーターになる工夫や地域のファンづくりを目指す情報発信をしている。
- 日本遺産そのものの認知拡大に貢献しうる取り組みとなっている。

別紙

炭鉄港推進協議会事務局

別紙



明治から戦前、戦中、戦後にわたって日本の成長と復興を支えた、北海道空知の石炭をはじめとする産業革命「炭鉄港」のストーリーが、日本遺産として認定された。本取組は、炭鉱や製鉄所、港湾、鉄道関連施設で働いた人々の生活に根付いた食べ物を「炭鉄港めし」とネーミングし、2021年度には大手コンビニチェーンでの商品化や、観光案内所へのパネル設置を行い、2022年度には、実際に炭鉄港めしが食べられる店舗をまとめたガイドブックの制作及びオンラインスタンプラリーを実施。

- 日本遺産のストーリーをしっかりと活用した取組で、その地域で味わえる食というところにフォーカスしている
- 大手コンビニチェーンと連携している点に新規性がある面白い。
- 地域の数多くの事業者と連携し、100km圏という広域連携を行っている。

